

令和2年度第1回宇陀市学校規模適正化検討委員会 記録

令和2年7月9日(木) 10:00~12:00
宇陀市役所第2委員会室

出席者

【宇陀市学校規模適正化検討委員】赤沢委員長、東畠副委員長、太田委員、中島委員、泉尾委員、覺地委員、中野委員、山中委員、栗谷委員、勝村委員

【事務局】福田教育長、中西局長、薄木次長、萩岡課長、太田主幹、垣内主幹、小松原指導主事、柳井指導主事、百瀬指導主事

垣内	これより令和2年度第1回宇陀市学校規模適正化検討委員会を開催する。 宇陀市学校規模適正化検討委員会条例第6条第3項の規定では、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができないと定められているが、本日は15名の委員中、10名の出席をいただいております、本委員会の成立について報告する。
垣内	引き続き、新規委員の委嘱・任命をさせていただき、本来であれば、教育長から一人ずつ委嘱・任命状を手渡しさせていただくところですが、会の進行上、席への配布をもって代えさせていただくことをご了承願う。 続いて、教育長より挨拶をいただく。
福田	九州豪雨の被害について一日も早い復興復旧を願う。また、新型コロナでは新たな感染者が発見され、改めて自然の脅威を感じながらも、梅雨の合間を縫って本委員会が開催できたことに感謝する。本日は、アンケート結果の報告など前回の委員会と重複する内容もあるが、新規委員もおられるので審議のほどよろしく願います。来年3月末には、適正規模、適正配置について答申をいただくことになっている。委員の皆様には、本会の趣旨を理解いただき、お力添え願う。
垣内	次に、委員を名簿の順に紹介させていただき、委員のお名前をお呼びするので、一言ご挨拶をお願い申し上げます。(名簿の順に紹介)
垣内	続いて、今年からの新規委員もおられるので、宇陀市学校規模適正化検討委員会について、簡単に説明させていただき、【資料1】で説明 それでは、6の議事に移る。条例第6条第2項に「会議の議長は、委員長がこれに当たる。」と規定されており、ここからの議事進行は赤沢委員長に願います。
赤沢	それでは、6の(1)「宇陀市学校規模適正化検討委員会中間報告(案)」が本日の中心的な検討事項となる。これは、昨年度の委員会の中でまとめてきたものであり、これを本年度最初の委員会で検討していくことになる。では、事務局より説明いただく。
垣内	「宇陀市学校規模適正化検討委員会中間報告(案)」について【資料2】で説明。
赤沢	先ほど、説明のあった「宇陀市学校規模適正化検討委員会中間報告(案)」について、報告書に従ってご意見をいただきたい。
中野	「1学年当たり2~3学級が望ましい」とあるが、現実と合っていないような気がするがいかがなものか。
赤沢	今回はアンケート結果の事実報告である。おっしゃるように、本委員会としても「2~3学級が望ましい」とするのかは、残りの委員会で引き続き検討していくことになる。
勝村	1ページのGIGAスクール構想について、新型コロナウイルス対策として本年度中に整備されることになったので、その旨、書き加えた方が今後の検討の参考になるのではないかと。
赤沢	確かに現状の変化を反映させた方がよい。18ページにICTの活用について触れているので、現状を書き加えるという形でどうか。

山中	このアンケートは、新型コロナウイルス感染症が蔓延する前のものだが、その後、生活様式も変わり、保護者の意識も変わっているかもしれないので、可能なら追加調査をして反映させた方がよいのではないかと。
赤沢	教育委員会として休校期間の子供たちの状況などアンケートを取る計画はあるのか。
柳井	児童生徒に関しては、スクールカウンセラー等を中心にスクリーニング会議のための心理的な調査を実施している。
赤沢	市として、保護者を含め市民を対象に実施している調査はないのか。
中西	6月議会でも議員から一般質問で、臨時休業中の様子をアンケート調査することにより、今後の対応に生かせるのではという意見があった。教育委員会としても検討したいと考えているが、県民に対して同様の調査を県がするとも聞いているので、それらを生かして対応したい。
赤沢	そのようなデータを次回の本委員会に含めて提供いただけるとよい。今後、全くそのようなアンケートの見通しがなければ、事務局とどのようにするか相談したい。
小松原	児童生徒については年2回、学習状況や生活状況の変化についてアンケート調査をしており、活用できるものは活用したいと考えている。
赤沢	今、学校には色々なところからアンケート調査等が来ているだろうから、回答する側も大変なので、重複する内容は活用することが望ましい。
桑谷	8ページの問題行動調査について、原因が明確でないと問題行動解消につながらないので、学校として把握されている内容を教えていただきたい。
小松原	不登校はいじめと連動してH29から微増傾向にある。この年度から、子供の欠席理由について、原因が不明でこれまで「その他」に分類されていたものが「不登校」として計上するように基準が変わったことも影響しているが、それでも全国平均より若干高かったと記憶している。不登校の原因については様々であり、一定の傾向として示すことはできないと考える。
赤沢	本件についての詳細な分析等は、本中間報告で示す内容ではないと考えるが、調査方法が変わったために急増しているのであれば、その旨を補足しておく必要がある。
桑谷	H25など調査方法が変わる前も認知数が多かった年度もあることから、この数値についてはきっちり分析する必要はあると思う。
福田	中学校での不登校の原因は、小学校から引き継がれているものもあることから、中1ギャップの解消を含めて小中連携ということも本委員会の中でも重要なテーマであることを補足させていただく。
中野	いじめと不登校は関わりがあると思うのだが、中学校で不登校の数がいじめの数より上回っていることが気になる。
桑谷	以前、保護者の判断で、子供をあえて学校に行かせないという事例があったと聞いているが、今はどうなのか。
中西	現在はないが、当時、市内にあったフリースクールに子供を通わせる一方で、学校には通わせないという事例があり、このような保護者の判断により学校に通っていない子供の数がここに含まれるのは事実である。
赤沢	《問題行動》についてはデータだけなので、統計の基準が変わったとはいえ、増加傾向にあるのは事実であるから、個別に対応していることなどを補足しておいたほうがよい。
勝村	併せて、学力や体力のように、数ではなく割合で表すなどして全国平均との比較ができるようにしておくとうい。

赤沢	<p>おっしゃるように全国の状況を踏まえて文章標記するなどして補足するという方向で事務局と検討したい。</p> <p>また、アンケート用紙本体を資料として巻末につけておくとよいと考える。加えて17ページの必要な教育環境についても、新型コロナウイルスを経験して意識が変わっているかもしれないので、最終報告では載せておく必要があるかもしれない。</p> <p>最後に、全体を含めて各委員から順に意見をいただきたい。</p>
泉尾	<p>先ほどの意見にあったように、今回の新型コロナ対応で新しい生活様式が求められる中、1学級当たりの適切な人数の意識も変わっているかもしれない。個人的には20人までの学級が実現できたらと思う。少人数の部活動については、他校と合同チームを編成し、工夫してやっている現実もある。</p>
中島	<p>市内では規模の大きい本校でも30人学級となると三密を防ぐのに精いっぱいである。学年当たりの学級数については、規模の小さな前任校では、確かに単学級でトラブルがあったときにしんどいこともあった。</p>
太田	<p>幼稚園でも臨時休業が明け、集団の中で育つ子供の変容を日々実感している。12ページの「友だち同士のトラブルがあった場合、クラス替えで環境を変えることができる」という思いも分かるが、トラブルを通して他者と折り合いを付ける力を学ぶことも大事ではないか。</p>
覺地	<p>毎年、学校でも保護者アンケートがある。数値結果の報告はあるが、学校として取り組んでほしい内容等について意見したことに対する回答がないことが多く、意見を書くのをためらうことがある。また、子供一人で家庭学習するのは限界があり、今回の新型コロナウイルスの対応が市によって異なるのは、受験生をもつ親として不安である。今日のような大雨警報であっても、9時以降、天気が回復すれば昼から授業をするところもある。</p>
勝村	<p>コロナ禍が終息しない中で、次代の学校を考える難しさを感じており、国の学校規模適正化の手引も今後、見直されるかもしれない。本アンケート結果にもあるように、社会性や協調性、コミュニケーション能力の育成などが学校の重要な役割だとするなら、それを実現する学校環境とはどのようなものか、デジタルに依存しすぎず検討されることを一保護者として望む。</p>
中野	<p>防犯上の視点からも、子供が困ったときなどに近所の人と話できる状況が確立できているのだろうか。子供が地域とのコミュニケーションを密にする教育を進めることが大切では。</p>
山中	<p>60年前、私が宇陀にいたときは1学級40人だったが、今回、コロナ禍も経て考え方も変わっているのかもしれない。本委員会の趣旨とは異なるかもしれないが、人口流出を防ぐ意味でも、20人が適切であると考えれば、中長期的な視点に立って市として断行していくことも必要だと考える。</p>
桑谷	<p>今回のコロナ禍で、私学ほどオンライン学習が充実していない中、公立では、先生がいないと勉強できない子供もおり、学力差が広がっていることと思う。先ほどの意見にあったように、適正化を一律に国の基準に合わせて進めるのではなく、一斉授業に馴染めない子供が通う学校があってもいいと思う。</p>
東島	<p>今後、地域で説明会等を行うに当たって、報告書に入れるかどうかは別として、11～14ページの内容について、望ましいと回答した児童生徒数、学級数とその理由について、クロス集計をしておいた方がよい。また、各地域個別の実情がある中で、この学校とこの学校を統合するというような視点にとどまらず、本委員会では、市全体として何が最も良いのかという視点で将来を見据えて、答申を考えていくことが必要だと感じた。</p>

赤沢	<p>クロス集計は説明会で必要となってくると思うので、分析しておいていただきたい。また、オール宇陀という考え方は、本委員会設置の趣旨が、そのような考え方に基づくものであると思うので、最終的には市全体としてどうあるべきかという視点が前面に出るようにまとめたい。中間報告書については、今日の意見を踏まえて、詳細が必要な部分は加筆する。新しい議論については、最終報告に向けて委員の意見として反映できるようにしたい。</p> <p>次に、(2)「今後の予定について」事務局から説明をお願いします。</p>
垣内	<p>様々な貴重な意見に感謝する。1学級当たりの適正な規模について、コロナ対策に関わっての意見も多かったが、三密解消を目的とした人数と、社会性や協調性等を育むことを目的とした人数では、軸をどこに据えるかで基準は異なってくる。例えば、30人を適正規模として学校を新設するとしても、今回の経験を踏まえ、教室の広さを大きめに考えたり、パーティションで教室を分割できるようにしたりすることも考えられる。また、覺地委員の意見にあった学力保障について、多くの市町村で気象警報時の最終の休校判断を9時としているのは、給食の準備の関係がある。が、今後も市民の様々な意見を参考に、子供の学びと感染予防の両立を図るための施策を考えていきたいと考えるのでよろしくをお願いします。</p> <p>今後は、本日の意見を踏まえ、赤沢委員長と共に修正後、18ページの表にあるように、各地域で行う説明会や9月議会の中で、本中間報告の周知を図る予定である。それらの中でいただいた意見も踏まえて答申案を作成し、次回、12月に予定されている委員会で、委員の皆さんに検討いただき、本年度末の答申の公表につなげていきたい。</p>
赤沢	<p>今回は本日のように、対面で会議を開くことができるか見通しがもてない中、オンライン会議を検討しなければならないかもしれない。その他、何か意見はないか。</p>
萩岡	<p>話の中にあつたGIGAスクールの経緯と現状について報告する。学校のICT環境については、これまでパソコン教室がその中心であつた。昨年12月に一人1台の端末を活用できるよう段階的に整備する国の方針が示されたが、今回の新型コロナウイルス対策として本年度中に整備する方針が新たに示された。今回の臨時休業中に、双方向のオンライン授業が出来た学校は、全国で5%程度と聞いている。本市においても本事業を活用して、第2波に備えて学校と各家庭の双方向のオンライン授業ができるように準備を進めているところである。</p>
赤沢	<p>では、これで議事を終了する。委員の皆様の貴重な意見は、最終報告に反映していきたいと思う。ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局に進行を戻す。</p>
垣内	<p>今回は、12月及び2月初旬頃に検討委員会を開催したい。また、日程が決まれば、お知らせするので、よろしくをお願いします。</p> <p>これで、令和2年度第1回宇陀市学校規模適正化検討委員会を閉じる。本日は、足元の悪い中、多数の参加をいただき、ありがとうございました。</p>